

（第3種郵便物認可）

交流戻る学校現場

新型コロナウイルスの5類移行で感染対策が緩和されたことにより、美方郡の学校現場では給食時の「黙食」がなくなっただけで、修学旅行や国際交流を再開するなどコロナ禍前の日常が戻りつつある。一方、感染への不安などからマスク着用を続ける児童生徒も多く、長期間に及んだマスク生活の影響を引きずっている。

（井上雅大、竹内涼子）

海外から初訪問

香美、新温泉町の小中学校は今年8日以降、文科省の方針に従ってマスク着用や給食時の「黙食」は求めないことに。このうち香住小（香美町香住区香住）では給食時の対応のほか、授業でのグループ活動も距

コロナ対策緩和の美方郡内 長期マスク生活影響も



給食時の黙食がなくなり、同級生との会話を楽しむ児童たち
24日、香美町香住区の香住小

離を確保しないなどコロナ禍前のスタイルに戻した。12日の授業参観でも、保護者の人数制限や日程の分散などの感染対策は行わなかったという。

コロナ禍で中止や行き先変更を余儀なくされた修学旅行や海外との交流も再開。浜坂高（新温泉町芦屋）は26、27両日、姉妹校提携を結ぶ台湾の屏東県立東港高級中学（日本の高校に相当）の生徒約20人を受け入れる。

台湾側が同校を訪問するのは2019年の提携締結以来、初めて。歓迎式典では麒麟獅子舞部が舞を披露する予定で、部長の岡野鉄平さん（17）は「ぜひ日本の伝統文化を味わってほしい」と意気込む。西岡智也教頭は「多くの学校行事が制限されてきた分、生徒たちには海外の生徒との交流を楽しんでほしい」と話している。

着脱にばらつき

一方、コロナ禍が長期化

したことで一部の児童生徒はマスク着用が習慣化。香住小では低学年の多くは未着用だが、高学年は7割ほどが着用を続けるなど、学年でばらつきがあるという。

これからの季節は熱中症のリスクが高まるため、学校側は屋外ではマスクを外すよう呼びかけ。寺田浩史校長は「マスク着用を強いられた3年間の（コロナ禍）影響は大きいようだ」と話している。